



SLOW FOOD 2.0 – ふりかえり

多様性を守る。それがスローフードが地球規模で存在する意義です。この地球に生きるすべての命の質を保つために、多様性はかけがえのない要素です。科学的・遺伝的な意味においてだけでなく、文化、社会のありかた、言語、そして個人や地域がこの崇高な惑星とどんな関係でいるべきか。そのすべての面において、多様性を欠かすことができません。

スローフードは、食べものの質について「おいしい、きれい、正しい」と要約して定義してきました。そして、多様性という言葉を使うことにより、それをより論理的に表現することができるようにもなりました。

食べものの質は、多様性なしに守られることはありません。多様性こそが組織の鼓動であり、アイデンティティであり、活力です。すべての命にとって「おいしく、きれいで、正しい」のでなければ、誰にとっても「おいしく、きれいで、正しい」食べものではありません。これは私たちの軸をなすメッセージであり、大切な視座です。食べものを生かす唯一の道は、それが育まれる土壌の多様性を守り、受け入れ、安定させることなのです。

活動がはじまってから30年間、スローフードは多くの多様性に出会い、経験を重ねてきました。多様性を研究し、多様性をトレーニングの対象とし、多様性に魅了されてきました。関わるすべての地域を単純化せずに深く理解するための手段としても、多様性というフィルターを用いてきました。

食べものを真ん中におき、この地球で人類がどう生き延び適応して行くかという核心へと漕ぎ出したことで、わかったことがあります。多様性が軸となれば、世界とより深く知り合い、数千年分の物語を理解し、多様な気持ちと発展のありかたを把握しながら、意味のある軌道を描くことができるのです。スローフードに国際的なアイデンティティを与えてきたスローガン「おいしい、きれい、正しい」は、いま、多様性に支えられていなければ、重要性と有効性を失うでしょう。

多様性を理解すること、それは今世紀の大きな挑戦でした。ときには、慣れ親しんだ思考の分類に当てはまらずに困惑することがあるかもしれません。それでも、多様性を理解し、受け入れ、尊重する道を歩みましょう。多様性は（食べものをまず一番に考える私たちの場合）物事を全体として見るために必要な、アイデンティティとも言える要素です。多様性なくして、アイデンティティもなし。私たちの根は、世界の多様性を受け入れた上で築く関係性の中に育つものなのです。

私たちは限りある資源の上に生きる、弱い存在です。しかし同時に、素晴らしい洞察力を持つ存在でもあります。今こそ、内なる地平線を多様な地域と文脈にまで広げましょう。参加の在り方や他者への誠実さを、多様化させましょう。組織的な説明がつかず、体系化することもできない行動や意思へも、脚本を開いておきましょう。どうしたらいいか、単純に理解するのは難しいかもしれません。しかし、新しい物語は確実に存在しています。同じ有機体の一員として、私たちの活動を日々刺激しています。

今こそ、時代の転換点です。多様性を新しい指針とし、組織の在り方を複雑な社会に寄り添わせましょう。今こそ、スローフードの活動が重要です。それを認識することなく、新しい一步を踏み出すことはできません。この星の複雑さを受け入れ、包みこみ、広い視野を持って新しいモデルを試していきましょう。

多様性が、味の方舟、プレシディア、テッラ・マードレ・コミュニティの基礎を築きました。すべての人類の共有財産である、地域特有の圧倒的に多様な食。それは、新しい経済へのパラダイムシフトを起こすための支点となります。地域経済を強くし、それをグローバルにネットワークしていくことが、これからの経済と発展には大切です。

2000年前の大プリニウスの言葉は今なお力強く響きます。

「今こそ、偉大なる自然の仕組みのさらなる研究へと漕ぎ出すときだ。人が何に生かされているかを学び、自分たちがどれだけ無知な存在であるかを認めなくてはならない」

スローフードの2番目の特徴は、喜びへの権利の主張です。設立時から、人には喜ぶ権利があり、それを守る国際的な運動がスローフードである、と宣言してきました。このため、あの組織は社会的責任を果たさずに遊んでいるだけだと見られることもあります。しかし、私たちがここでいう喜びとは、社会に参加する喜びであり、美しさの共有であるのです。それこそが、日々、カタツムリマークのもとで動く何千人ものボランティアを突き動かしているものです。私たちにあって喜びとは、生命の圧倒的豊かさを楽しむための普遍的な権利なのです。

スローフードとは何か。私たちが誰であるのかを伝えること、理解してもらうことになぜこれほど苦勞するのでしょうか？これからも完全には、この課題を乗り越えることはできないかもしれません。それは、ブリア・サヴァランのガストロノミーの定義にも表れています。

「ガストロノミーとは、人間が何者であるかのすべてに関わる複雑な規律である。定義付けしたり、体系化された制限の中で縛り付けることができないものなのだ」

さて、スローフードの世界観を表現するために頻出する2つの言葉について、考えてみましょう。複雑さ、そして調和です。

‘Complexity / 複雑さ’ はラテン語の動詞 *complector* から派生した言葉です。抱きしめ、包み込むという意味があります。‘harmony / 調和’ は、融合、合意という意味の古代ギリシャ語の名詞 *ἁρμονία* から派生した言葉です。

複雑さを理解しようとすることは、世界を抱きしめることにつながります。それは、物事を勝手にラベル付けすることなく、多重性・多様性を受け入れる大切さを知っていることです。これを平和的に行うことが、つながりを生みます。テッラ・マードレ・ネットワークが、偶然の出会いからつながりが、そして調和が生まれる場として、最も輝かしい例でしょう。これこそが私たちの歩むべき道、未来へのヴィジョンです。

スローフードに似ていると言われる他の国際組織の中には、コミュニケーションに並々ならぬ投資をし、十分な収益を得て、それを現場に持ち帰る組織もあります。そういった組織をモデルとして真似たら、うまくいくのではないかと感じることもあるかもしれません。

本当にそうでしょうか。比較してみてください。私たちは、コミュニケーションには一切の（または最小限しか）投資をしてきませんでした。地域で自然と沸きおこるアイデアや取り組みがそれぞれの在り方で自由に発展していくのを応援してきました。そうすることで、自らの想像も追いつかないほどの成功を取ってきました。

いま、問い直しましょう。私たちは、これまでの哲学をひっくり返し、新しい手法を取り入れるべきなのでしょうか。自分たちのものでないやりかたを採用する準備が、本当にできているのでしょうか？

いつだって、不可能に見えるアイデアが自由に羽ばたくのを見守ってきました。何千人というやる気に満ちたボランティアに支えられ、手段も資金も足りないように見えた試合を、いくつもくぐり抜けてきました。スローフードはこれからも、人の予想を遥かに上まわる素晴らしい取り組みが育まれる、血の通った土壌であり続けましょう。物理の法則に逆らおうとも、ミツバチが羽ばたくのを応援し続けたいのです。

次の大会でも、私たちが描くのと似た未来を目指す代表や組織を締め出すようなことをしてはなりません。全体を俯瞰するビジョンに立ち返り、別組織の参加を恐れる気持ちを捨て、一緒に活動することができる共通の分野を探しましょう。

他者を受け入れるのは、スローフード運動が持つ、いい意味での無秩序感を最大限に生かすための手段ともなります。外部からの刺激を吸収し、成長することで、今突きつけられている現実をより深く理解することができれば、結果として、この地球上で文化的、哲学的に優位であることもできるようになるかもしれません。

プエブラ大会がより広く、より国際的なビジョンをもたらしてくれたように、今夏に中国四川省の成都で行われる大会もきっと、パラダイムシフトへのきっかけを与えてくれるでしょう。成長、利益、拡大、競争という価値を絶対化することで時代がはらむ矛盾は、日に日に明らかになっています。周りを見渡せば誰もが、現在のモデルに失敗を見いだすことができます。社会的、政治的、人道的な失敗が、いたるところに湧き出しています。地域コミュニティの尊厳からはじまるやりかたで、これを再建する必要があるのです。

いま、テッラ・マードレに参加している150カ国において、ただ生き抜くことに腐心しなくてはならない国が、少なくとも30はあります。経済的に裕福な西側の国々でも、格差は拡大するばかり。膨大な数の移民が毎年増え続け、今後も減ることはないという状況が、問題に油を注いでいます。

新自由主義が社会的、政治的、経済的な不和をもたらしました。バランスを欠いた大量生産が、もっとも脆弱なコミュニティ、環境資源、公共財の置かれた状況を悪化させてきました。大企業が不当に大きな分け前を取り続け、大惨事を避けるためのもう一つの道を選ばず、政府さえ

も、私的な利益を追求することだけが目的である「強大な力」の政治的経済的な餌食となりました。

気候変動を食い止めるためのCOP21（気候変動枠組条約第21回締結国会議）パリ協定での合意があるにも関わらず、地球に生きるすべての種との共存ある豊かさを目指す努力もなければ、豊かさの新しいモデルを再構築しようという断固たる意思の共有を見ることもできません。社会におけるバランスの欠如は飛躍的に増大していて、格差社会の広がりには前代未聞の状況です。世界でもっとも豊かな1%の人々が、残り99%よりも多くの富を所有し、世界でもっとも裕福な8人が、世界でもっとも貧しい350億人の人々と同じだけの資源を手に入れているのです。

このような状況から、私たちは抜け出すことができるのでしょうか？すべてが自分とは関係ない前提で、これまで通りの生きかたを続けていていいのでしょうか？第3次世界大戦前夜ともいえるべき地理的政治的な状況に、私たち自身が抑制されてはいないのでしょうか？

これまで通りのやり方では、出口を見いだすことはできません。生物多様性を守れば、私たちの活動に意義が吹き込まれ、平和と人類の発展のために小さな貢献をすることができます。世界のどちらの側につくのか、決める時がきました。その場凌ぎは、もう許されないのです。

多数の上に少数が立つ構造は、終焉を迎えつつあります。奴隷制、植民地主義、新植民地主義、搾取、そして今日起こっている土地収奪。私たちは先代から引き継いでいるのは、そんな世界です。大会では、そんな立ち位置を改めましょう。別の在り方で前に進むことができるよう、もう一つの道と、新しい地平線をデザインしましょう。

現在、世界人口の5人に1人が中国人です。そして、中国は今、15年間の輝かしい経済成長の結果と折り合いをつけている只中にあります。成長の結果、膨大な数の人々が貧困から抜け出した一方で、電光石火の都市化が、中国古来からの伝統工芸や郷土料理、農業技術を危機に晒しています。それはすなわち、環境資源の破壊であり、人の暮らしの質を犠牲にすることでもあります。

今この世界で、これだけ重要な存在となった中国は、国内外で必要な先進的方向転換に対して無関心でい続けることはできません。スローフードには、食のつながりを通して地方自治を守り、公正で平和的な豊かさのありかたを模索してきた経験があります。私たちなら、進むべき方向を示す貢献ができるかもしれません。

故に成都大会では、気候変動と生物多様性、新しい経済について発言します。適切なとき、適切な場所に、適切な解決策とともに私たちの大志あるプロジェクトを提示します。見たい世界において私たち自身の役割がどうあるべきかを再考し、開拓者になりましょう。食こそが人を生かし、食こそが他者と他者を出会わせる要であるからです。食は、すべての人々のアイデンティティであり、世界への窓なのです。

成都大会は、世界の矛盾を解消する効果的な答えへの跳躍版である必要があります。多くの支部、テラ・マードレ、先住民族、自然発生したグループ、ユース組織からその他組織まで、スローフードコミュニティは豊かな多様性を内包しています。その多様性を包み込んだまま、組織の新しい次元を模索する必要があります。

その意味でも、スローフードに関わる、構造を持たない草の根モデルを、皆で受け入れていきましょう。これは、テッラ・マードレ、および、これまで数世紀に渡って自分たちの多様性を守り抜いた功績者である先住民族から学んだ教訓です。

さて、ここまで書いたことがスローフードの今、そして未来の行動の哲学的基盤となるとすれば、包括的な組織のあり方についても、ここに議論しておくべきでしょう。

スローフードは、これまでと現在、今あるすべてから抜け出さなくてはならないと信じています。これまでは西側の論理で、社会に存在する小さな暮らしや素晴らしい経験値をただ搾取してきました。これからは、ネットワークの在り方はもちろん、そもそもの組織の在り方から開いていきましょう。

この考え方があれば、伝統的な協会主義が、テッラマードレに見ることができるよう草の根の取り組みと共存することができるようになります。西側の忠誠的民主主義が、先住民族コミュニティに見られるような先祖代々の価値観、また多様性と流動性がもたらす自由精神と出会うとき、スローフードに固有の、いい意味での混沌が生まれます。

前回のスローフード国際会議で決めたこの組織改革は、その過程からすべての多様性を受け入れ、とことん包括的でなくてはなりません。組織の核の部分に立ち返り、活動全般において、共有することと交流することを真ん中に据えたいのです。

用意周到な確実性から一歩踏み出し、気苦労がない代わりにリスクも高い現場で戦うことは、大変な挑戦でもあります。縦割りの仕組みの中ではなく、他テーマとの連帯の上で物事を考えるようにしましょう。立ち位置を決める前に、自分たちのムーブメントの中に多様性はあるかと考えることを習慣にしましょう。言うまでもなく、世界中のどこでも、どんなやり方で活動していても、日々こういったことを突きつけられる機会が増えていくでしょう。

何年もの間、会員不足の状況が続いてきました。そのことを話し合い続けてきたことは、今、疑いなく私たちの財産になっています。私たちの運動の外にある想像力は、実際よりも強固なものとして私たちを捉えています。

人間の体にたとえて話をしましょう。多様性は私たちの心臓です。何があっても、すべてを生かし、不可能を可能にする血流を生み出すのが、多様性。心臓、または多様性は、私たちの循環組織を動かす静脈であり、動脈です。アイデアやプロジェクト、そしてメッセージを伝える組織の在り方が滞らずに循環するのは、多様性があるからです。どんな小さな血管も毛細血管も、体である協会組織が健全に機能するために大切な役割を持っています。優先順位を問われることなく、どの活動も大切にされなくてはなりません。すべての器官が機能していなければ、体は動きません。故にいつも、広い視野のヴィジョンを持ち、包括的であり、フレンドリーであり、多様でなくてはならないのです。

これからの挑戦は、ローカルとインターナショナルの調和であり、組織的に成し遂げなくてはならないことと多様性の共存です。この挑戦を達成するためには、軸を強く持ち、多様な活動におけるすべての領域において、入ってくる刺激を注意深く受け入れましょう。（その意味で、世界大会は大事な通過点となるでしょう）

多様性を受け入れると同時に、キャンペーンにおいては、皆で一丸となって国際的な政治的アイデンティティに集中しておくことも必要です。

重層性を持ちながら一つであること、ローカルでありながらグローバルである、そんな二面性ある価値観を受け入れる組織であるために、いくつかの原則を提案します。

本部では:

- 1- 政治的に、また計画力の上で、優れた力が必要である。日々変化する政治的枠組みを注視しながら、論理的に精緻なものを持ち続けなくてはならない。本部組織が皆にとって世界を理解するためのツールである限り、一番大切な役割はひたすら考え抜き、それを共有していくこと。今世界で起きていることを把握し、すべての行動において効果的で具体的であるために、文化人による評価組織を世界中に持つこと。立ち位置を決め、発言に論理的深みを保つために、運動には幅広い友人たちが必要である。
- 2- 運動全体を束ねる効果的な国際キャンペーンのために、表現力豊かな提案ができるマネジメントチームを選ぶ必要がある。キャンペーンの存在は、運動の国際的な結末にアイデンティティを与える。スローフードの強みは、世界規模に食科学、農業、そして環境セクターからの根本的な要求を理解する能力にある。多様性を守り、安定させていくことは、そのまま地球規模の結末となる。互いへの好奇心と共有された知識の周りにコミュニティを築くこと。それが世界中で毎日実践され、イベントごとに祝福されることで、違いを受け入れながらも、共有できる信念が強くなっていく。

地域では:

3. 運動に対して、広く、包括的に、絶対的に誠実であるために、地域レベルでは、参加者が多様であることに最大限の敬意を払う。草の根から起こる多様なグループこそが私たちの力の源であり、その小さな芽こそが応援されるべきだ。こうした地域組織の結末に欠かせないのが、設立時に書かれたマニフェストにある原理と、国際的なキャンペーンである。
4. 多様な参加者の層、そして対話ある運営が大切。階層や分断、世襲制があってはならない。新しい形のヒエラルキーなきリーダーシップを、すべてのレベルにおいて生み出す必要がある。一極集中は、国際レベルよりも地域レベルにおいて非効率的である。一国内で、または大きな地域内で画一的な基準が定まっていると、上記で触れたような枠組みを作るのに効率的でも機能的でもない。再組織においては、平和的な拡大が指針の一つとなるべきである。

“Food For Thought”

～スローフードの未来を話し合う上で～

国際理事会 作成

以下の文書は、2017年の世界大会にて、話し合われるべき点をまとめ作成されたものです。議論が始まったのは、2015年6月に開催された国際評議会でした。その後、数ヶ月の意見交換といくつかの変更を経て、承認されたものです。以下の点を中心テーマとして、項目を挙げています。

- スローフードの未来はどんな姿なのか、またそれはどのように実現するのか
- 組織構造を再定義する
- 私たちの目的を再認識する
- 構造・運営方法を再定義する

2つの大きな質問

1. 5～10年後、私たちはどこに居るべきなのか。

- 組織全体の再ブランディング … 私たちは「食を真ん中に置いた運動」であるべき。
- メッセージ … 私たちが何を伝えたいかわかりやすくするために、優先順位を明確にする。
- 焦点は、生物多様性プロジェクトの影響力や、農家や現場、市民中心になるべき。
- ロゴと文言 … 私たちが何者なのか説明する時、背景にある複雑性や多面性を保ちながらも、今よりもシンプルで効率の良いコミュニケーションを行う必要がある。現在、私たちの持つロゴの種類は多すぎるので、カタツムリのロゴを効率よく広めていくことに集中すべきである。
- 地域グループ … 各地にあるコンビビウムやスローフードのグループが、常に新しいスローフードの活動ができるように、繋がり続ける術を見つける必要がある。コンビビウムよりも、食のコミュニティを持つことが重要である。
- 量よりも、質を求めるべきである（コンビビウムの数ではなく、実質活動の多い「食のコミュニティ」を増やす）

2. スローフードには、誰が関わるのか。

- 知識の多い特権階級やニッチ層ではなく、もっと多くの層を開拓すべきである。
- 地域のグループは、職業や文化的背景、年齢層や民族などが多様な人々で構成されるべきである。
- ロータリークラブのようなグループではなく、運動家のグループとなるべきである。
- 会員制の枠を超えるべきである。会員は一定数いるが、金銭授受があるのか、それとも一切行わないのかの議論も含め、新しい形の参加方法を設けるべきである。
- 国際的に、国内で、そして地域でどのようなコミュニケーションをとるのか、再考する。中央で取りまとめることと、各国・地方を尊重し合う視点を同時にもつ。
- 地域ごと・テーマごとのネットワークを構築、又はより強固なものとし、地域や文化独自の共通課題に取り組めるようにする（例：黒海周辺国のネットワーク構築、衛生基準の課題をもつグループ構築、等）

上記に言及された項目に基づいて、2015年12月に行われた国際理事会で決定した項目は、以下の通りです。

- “Food for Thought”（上記の文書）、スローフードの目標が「食を真ん中に置いた運動」であるということを確認。
- 目標を達成するために、スローフードは会員制の組織というシステムを乗り越える。各国が独自におこなっているように、新しい会員の形やシステムを構築する。
- 地域のグループが私たちの最大の強みであることは、揺るがない。しかし、コンビビウムという単語は使わず、実体のあるコミュニティであることを強調する。
- 各国では、分析・検討の上、その国の事情にあった組織の形をとる。
- スローフードは、活動を行う上でのビジョン・戦略・ガイドラインを定義し、各国・各地域のコミュニティはそれらに基づいて活動を実践する。
- スローフードの運営側の役割は主に、以下となる。
 - コンテンツ・キャンペーンづくり
 - コミュニケーション
 - 養成
 - 地域ごとの資金調達支援
- スローフードの母体と、各国の運営機関との関係を制度的、金銭的に定義するメカニズムが必要である。
- 将来的に、スローフードの資金源は寄付からなるべきである。■

2016年6月、イタリア・プーリアで行われた国際評議会の概要

国際評議会（＝世界各国のスローフードの評議員の会議体）が2016年の6月に開催されました。そこで、上記の”Food For Thought”とカルロ・ペトリーニの議案書が提出されました。この評議会では、従来の議論の方法とは違う新しい試みで、総意をまとめる方法を採用しました。

7つの大きな質問を通して、以下のような手順で会議は行われました。

- a) 世界的な視野を各国のリーダーから集める
- b) 集めた回答の中から、何が広く影響を持ち得るか認識する。
- c) 回答の中で、地理的条件等や課題背景が共通したものを見つける
- d) 組織の短期的・長期的な戦略を次の世界大会に向けて定義する。

このような活発な議論の中から、一つの項目が浮かび上がりました。それは、私たちが結束させる、世界的に共通した一つのプロジェクトが必要だということです。

国際評議会でも議論された内容を詳しく閲覧したい場合は、国の評議員またはスローフード国際本部までお問い合わせください。 ■